


グループホーム いこいの里 白銀

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎日お一人お一人に声掛けし、この方にとっての自立はどのようなか引き出しながら職員と意見交換している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		町内に入り出来るだけ近づけになれるようにしている。散歩などに出た時には気軽に挨拶するように心がけている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		天気の良い日には町内や公園を散歩したり近くの市場やコンビニに出掛けている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		認知症について地域の方に理解してもらえるように勉強会など行っていきたい。

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員間の事業所の力をどう生かせるか話し合っている。		運営推進会議の中で地域の高齢者などの暮らしに役立つことはないか議題にあげ話し合い、取り組んでいる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後会議の場で確認し評価について話し合い、改善できる部分は改善している。		地域との交流が出来なくて困難さを感じる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の近況報告や参加者の方々の意見をもとに話し合い、次回結果を報告し再度話し合い、意見を元に実行している。		災害時の対応や職員の地域貢献について話し合っていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会に所属し、組織を通じ北九州介護保険課と話し合いの機会も設けている。運営推進会議にも参加していただいている。		地域包括支援センターの方と会議の場だけでなく今後の介護状況や、どのような支援を行っているかなど情報交換をおこなっている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護センターを利用しており必要な方には活用し支援している。		新入居の方には説明を行い、利用したい入居者様に対し活用し支援していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全施設で虐待防止委員会を作っており各施設に一人委員をおいて毎月委員会を開きミーティングを行っている。毎朝、虐待防止の心構えの文章を提唱している。		虐待委員会で毎月委員会を開き社員ミーティングで報告を行っている。ヒヤリハットに関しても同委員会で検証して施設に持ち帰り職員へ提言している。

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者様やご家族などの疑問点、不安な点には契約書、重要事項説明書を使い細かく説明し、十分な理解、納得を得ている。本社のマネージャーと管理者2名で対応している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に2回相談サービスの方が来訪され、利用者様とお話をする機会を設けている。又ホーム内に意見箱を設置している。</p>		<p>日々生活の中でふと出た不満や苦情、些細な事でもすぐにメモし職員間で話し合っ行ってきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度ご家族へその月の利用者様の状況、金銭について記入したコピー、毎日の状況について送付している。</p>		<p>面会時にはご本人の近況を詳しく話すようにしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議への参加の呼びかけを行い、会議の場で不満や苦情を話して頂けるようにしている。</p>		<p>面会時などに要望や不満をお聞きするようになっている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見や提案を管理者へ伝え、管理者が管理者ミーティング等の場で運営者へ意見を報告している。</p>		<p>社員ミーティングに全員参加し、職員の意見を取り入れている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者様の状況に応じて、必要な勤務時間の変更など話し合い調整している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動がある場合は、新しい職員の方に働く前に何度かホームへ来てもらっている。</p>		<p>異動時には余剰に人員を配置してもらいたい。</p>

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	採用にあたっては向上心のある方を採用するようにしている。又研修の掲示を自由に参加出来るようにしている。		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	月に1回ミーティングや全事業所の集まる社員ミーティングに人権尊重の話し合いや教育を行っている。		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修の機会の確保や勤務後の研修を設け、同僚と共に学び成長することを目指している。		グループホーム協議会や近隣の病院、地域包括支援センター等から様々な研修のお誘いがあり、出来る限り参加している。
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会の研修に参加し、常に交流を図っている。又、お互いの情報交換にてサービス向上を目指している。		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	慰安旅行などに行き、職員のストレスの軽減を図っている。		管理者が職員の様子を見ながら、休みの必要な職員には休んでもらっている。

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者ミーティングの場で職員の頑張りや努力を報告し実績、勤務状態を把握している。		その日のホーム内の内容を運営者に毎日報告している。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者との雑談などで話し合いやすい場、機会を常に持つようになっている。		職員1名入居者1,2名担当制にしてその方の部屋の季節の衣類の入れ替えや身の周りの必要な物の購入などを本人と話し合いながら親密な関係を作るようになっている。担当は毎年交代している。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談を何度も行い、お互いに納得行く迄話し合いをしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	運営者と管理者、職員が集まり必要としている支援について話し合い、対応している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人にとって「どれが」「何が」安心、安全な生活を送っていただくためのサービスなのか相談しながら工夫している。		ご本人様やご家族の方、職員と定期的に話し合う機会を設けている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に声掛けしながら一緒に楽しく過ごせる様にコミュニケーションを図っている。		洗濯物干し、洗濯物畳等個々に合わせて職員と一緒に出来る手伝いをして頂きコミュニケーションを図るようにしている。

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	いこいの里運動会や当施設の祭りにご本人や家族と一緒に参加して頂き、楽しく過ごして頂いている。		ご本人や家族の要望があれば面談時間の延長もできる。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームに来られた家族の方には一緒におやつやお茶をして頂いている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所での買い物にお連れしている。		気軽にドライブに行く機会を多く作り、行きたい場所に案内している。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホール内でのソファはテーブルを囲うような形に配置しており、同じ場所で生活している人の顔がすぐわかるように配慮している。		ドライブの時には4～5人で行くようにして同じ場所へ行ったことを話せるようにしている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状や暑中見舞いを出し近況報告をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	週に一度、一対一でお話をする時間を設け、ご本人が何を望んでいるのかを会話の中から読み取るようにしている。		

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際に家族の方や以前に入居していた施設の方等からご本人の情報を出来るだけ詳しく聞き、フェースシートに記入している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	月に一度ミーティングを開き、各入居者お一人お一人の状態を全職員が把握するようにしている。又、申し送りノートに記載して再確認するようにしている。		心身状態に変化、異常があった場合は職員や主治医、看護師と話し合い状況に対応するようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議にて話し合った内容についてご家族に話したり、かかりつけの医師に相談や意見をもらい作成している。		カンファレンス参加への呼びかけを行い、職員や家族など直接的に意見交換を行える場を作る必要がある。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者様が退院した場合などには退院当日にカンファレンスを開き入居者様の状態に合わせた計画を作成している。又、月1度ミーティングを開き入居者様の現状に最も適した計画を立てている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に経過記録、ケアプラン実施計画表、アセスメントシート、記入を行い介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の保育園の園児との交流を行っている。		保育園の行事にも参加させて頂いている。

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向に沿えるように努めているが、ボランティアなどの協力が思うように得られていない。		本人の意向に対し、他の機会などの協力が必要であればそれに応じ協力してもらえるよう呼びかけを行い、支援していく必要がある。又、関わりを持ち協力してもらえる関係作りをする必要がある。不定期ではあるがボランティアの方に来て頂いている。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム協議会の会議に参加し他事業者とサービスについて話し合い、参考になっている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での話し合いに留まっている。		本人の意向を重視し必要であれば協働していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と常に連携をとっており24時間の対応が出来るようにしている。		かかりつけ医の連携を取りながら必要に応じて専門医を受診するようにしている。その状況等はその都度家族に連絡し承諾を頂くようにしている。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月定期的に受診しその都度職員が医師と相談し治療についての服薬相談、対処方法など実施している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2度往診にきて頂いている。また、入居者様に少しでも異変があれば担当看護師に連絡し医療活用の支援をしている。いこいの里若園訪問看護ステーションと連携している。		いこいの里若園の訪問看護ステーションの訪問看護を受けるようになった。

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入居時に情報交換し、安心して入院していただける様に連携体制を整えている。</p>		<p>入院中に病院へ行き医師、看護師から状態について職員と話し合いを行っている。</p>
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ターミナルケアについてミーティング等で話し合い、勉強会をしているが、かかりつけ医と往診時話し合いを行っている。</p>		<p>医療が必要になれば入院したほうがいいと医師の意見がでている。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在、ターミナルケアを行う体制の整備を行っている。</p>		<p>訪問看護ステーションとの連携をとるようになったのでターミナルケアの対象となる方、家族と話し合いながら前向きに検討して行きたい。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>関係者全員集まりご本人にとってどのような方法が最上なのか情報交換を行い何度も話し合い行っている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報やプライバシーには十分に気をつけ言葉掛けや対応に対してはお一人お一人の誇りを配慮している。</p>		<p>記録の記入の仕方、言葉掛けの方法などミーティングにて話し合っている。</p>

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が出来ることはしていただき、希望によっては支援している。		お一人お一人のそばに行き話しやすい雰囲気作りの中で希望や自己決定の働きかけを行っている。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の心身の状況に合わせ一日の勤務内容の調整を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1回訪問理容を実施している。更衣する際には入居者様と一緒に洋服選びをしている。		女性の入居者様には化粧(口紅程度)やご希望の方にはマニキュアなどをおしゃれを楽しんで頂きたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員入居者様と一緒に食事を摂っている。また、食事の際には入居者様の好きな音楽などをかけている。		入居者様の要望には出来るだけ応じ、一緒に買い物に行き購入している。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつ等は入居者様の好みに合わせ、近くのコンビニやスーパーへ入居者様と行き購入している。		入居者様の要望には出来るだけ応じ、一緒に買い物している。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	お一人お一人の排泄表を作成している。個々の排泄間隔を考慮してトイレの声掛け又はトイレ誘導を行っている。		夜間帯も本人の希望を聞きながらトイレの声掛けや誘導を行っている。

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様のお一人お一人の希望やタイミングに合わせて午前、午後に分けて入浴していただいている。		1対1にて入浴を楽しんで頂いている。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣に沿うようにし、安心して眠れるような支援をしている。また、状態により休息したほうがよい入居者様は居室で休んで頂いている。		お一人お一人が安心して眠れる環境作りを考えるようにしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人お一人の誕生日会を開き、手作りケーキを入居者様と一緒に作って楽しんで頂いている。		希望のある方は職員と1対1で食事に出掛ける。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人お一人買い物に行く際にはお財布を所持していただき、ご自分で払えるように支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	市場へはお一人お一人お連れし、食材を見ていただき買い物を出れるようにしている。		天気のいい日には散歩にお連れしている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日には職員と一緒に1対1で普段は行けない遠くの市場やデパートへいける様に支援している。		

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望によって行っている。		入居者様から入居前に関わりのある方々に年賀状を出せるように援助する。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の方が来られた場合は職員に声をかけて頂き、一緒に話をしたり、おやつを食べたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待委員会を作り身体拘束しないケアに取り組んでいる。		虐待委員会を作り常に勉強会を行っている。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけず感知センサーを設置している。		ホール内に必ず一人は見守りの職員を置くように声掛けを行っている。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間の声掛けにて入居者様をすぐ介助出来る様にしている。また、入居者様お一人お一人の居場所を確認している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	目に見えない場所に保管している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故があった際には、事故報告書の作成し運営推進会議や行政への報告を行い、再発防止に努めている。		事故後には直ちにミーティングを開き事故防止に努め話し合っている。

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティング時事故を想定し、救急時の対応について話し合いマニュアルを作成している。また目に届く場所に置いている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に一度避難訓練を実施している。地域の方をお願いし手いるが協力は得られていない。		消防署に連絡し立ち入り検査、消防訓練の指摘、指導をしていただいている。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについてはその都度変化に応じて家族と職員と対応策について話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	お一人お一人の体調の変化や異変を発見次第、記録に残し申し送りを行っている。又、必要な際にはすぐに受診するか医師に連絡し指示をうける。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の薬の種類を把握し症状の変化を常時観察している。薬の配薬は決まった職員がするようにしている。毎食時の時に出勤職員で薬の確認をして服薬前に本人に口頭で日付と時間の確認をして介助している。		処方変更があった場合はなどは申し送りノートと受診ノートに記入し確認する様に努めている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	お一人お一人の便秘の原因を追究しその方に合った対策を講じている。		立ち上がり運動や腹筋を勧めている。水分補給を多く摂るように援助している。

グループホーム いこいの里 白銀

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には毎回歯磨きを行い、義歯の方は歯磨きの都度義歯を外してもらい洗浄している。又なるべくご自分で磨ける所は時間が掛かってもして頂いている。義歯は每晚ポリドントに漬けている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様お一人お一人の状態に応じて調理など材料の工夫をしている。		肉類が嫌いな方には魚類をお出しし、又肉と分からないように献立の工夫をしている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しいつでも確認できる位置に置き、外出後には手洗い、消毒、うがいを徹底している。夜間、トイレ内やホール内、手すりなど手で触る箇所は消毒を行っている。		外出後、食事前にも手洗い、消毒、うがいを徹底して行っている。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材を取り入れている。又、調理用具などは熱湯とハイターにて消毒、殺菌を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に草花などの植物や野菜を植えている。		玄関部分に網戸を設置し日中はホーム内の様子がプライバシーの守られる範囲で見える様にしている。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置や季節感のある飾りや季節の花を置くように工夫をしている。		

グループホーム いこいの里 白銀

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子を設置し、テレビコーナーや畳コーナーなど設置している。個々が思い思いに過ごせる様に工夫している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に、入居後も居室内に個人の使い慣れた物や写真、家具等を持ち込んで頂く様にしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室、ホール、トイレ等全室に24時間自動的に換気出来る機器を設置している。また、毎日全居室の窓や玄関を開け換気している。		玄関部分に網戸を設置し換気を行える様にしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を作らないように、又すぐに座ることが出来るように椅子の配置を考えたり、ホール内を安全に歩行しやすいように手すりや掴む物があるように配置している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人個人の出来ることを取り組んでもらっている。		介助時、出来る部分は入居者様にして頂き、出来ない部分を介助するように努めている。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周りにプランターを設置して花や野菜を植え水遣りをして頂き観賞して頂いたり野菜の収穫をして頂いている。		玄関前駐車場で食台を出してティータイムに利用したり、椅子を置き日向ぼっこをしている。

グループホーム いこいの里 白銀

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム いこいの里 白銀

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いこいの里全入居者様の生きがい作りとして、新年会、運動会、一の又温泉旅行、いこいの里祭り、餅つき、忘年会を全入居者様に集まって頂き、皆様楽しんで頂いています。全事業所としての取り組みで虐待委員会、口腔ケア委員会、レクリエーション委員会があり研修、実践報告などの自己啓発できるような仕組み作りをしている。